

# 市政に対する

# 一般質問

今定例会では、10人の議員が2月22日、23日、26日に一般質問を行いました。質問の中から、主なものを質問者順に掲載します。

**一般質問**とは、議案と関係なく市の行政事務の状況や将来に対する方針などをたずぬもので、市側は、質問に対し基本的な考え方や問題解決策について答弁します。

## 小林啓子議員

- 「祖父母手帳」の作成について
- 乳幼児の家庭内事故について
- 紙おむつの処分について

## 大山重隆議員

- 幸手の高齢者をめぐる現状・課題、その対策について（平成29年度の調査をもとに）
- 地域包括支援センターについて

## 小林順一議員

- 小中学校の長寿命化の推進について
- 無線連動警報器の設置推進について

## 大平泰二議員

- 九郎右工門集会所補助金不正請求
- 中島用悪水路土地改良区補助金問題
- 国保会計広域化について

## 本田謡子議員

- 避難所開設訓練について
- 福祉避難所について

## 青木章議員

- 駅舎と自由通路について
- 駅西口駅広と停車場線等について
- 親水公園等について

## 宮杉勝男議員

- 積雪対応の件
- 地域包括ケアシステムについて

## 松田雅代議員

- 幸手市の新年度組織改革について
- 幸手市の「立地適正化計画」への取り組みについて
- 幸手市デマンド交通について
- 幸手市の農業を元気にする農業振興対策について

## 木村治夫議員

- 市民に対する行政サービスについて
- 幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
- 平成30年度一般会計予算について

## 武藤壽男議員

- 道路の補修整備について
- インフラ施設等の総合管理計画について

## 3月定例会

傍聴者	
39人の方が傍聴されました。	
<b>議会インターネット中継のアクセス件数</b> インターネットを利用した議会中継(ライブ及び録画)を行っております。	
1月	399件
2月	1810件
3月	996件
の方が視聴されました。	

## 3月定例会 会期日程

- 2月21日(本会議)
  - ・開会・会期の決定・報告事項
- 2月22日・23日・26日(本会議)
  - ・市長提出議案一括上程、提案理由説明
- 2月26日(本会議)
  - ・市政に対する一般質問
- 3月2日(本会議)
  - ・議案に対する質疑
  - ・議案の委員会付託
- 2月26日・3月5日・6日(委員会)
  - ・文教厚生常任委員会
- 3月7日(委員会)
  - ・総務常任委員会
- 3月9日・12日(委員会)
  - ・建設経済常任委員会
- 3月20日(本会議)
  - ・委員長報告、質疑、討論、採決
  - ・閉会

### お詫びと訂正

市議会だよりさって2月号16頁の議案の結果、議案第79号の松田雅代議員の採決の結果に誤りがありました。お詫びして訂正します。

(誤) ○賛成 (正) ×反対

「祖父母手帳の」の作成は



小林啓子議員

**Q** 平成28年第2回定例議会において、「祖父母手帳」

作成について一般質問した。

その後の進捗状況を伺う。

市民への情報提供、掲載方法等の周知状況について伺う。

**A** 先進自治体の事例の情報収集をし、祖父母世代や子育て世代の方々から意見を聞

きながら、内容を検討し、今年度中の発行を考えている。情報提供等については、子育て総合窓口での配布を予定し、また、各公民館等でも配布したい。ホームページにより、ダウンロードできるように考えている。

「じいじ、ばあばスタートブック」として、A5版サイズの大きさで、3月中に配布できるようにしたい。

(健康福祉部長)



高齢者の現状・課題と地域包括支援センター



大山重隆議員

**Q** 平成29年の高齢者をめぐる現状・課題その対策への調査によると、独居高齢者・

老老介護世帯の急増が挙げられる。その課題・対策は。また介護行政に中心的役割を果たす「地域包括支援センター」について。その相談業務・介護事業所の選択に関して公正・中立性への指導は。センターは五年前

まで、東は市の直営、西は民間委託であったが、東西センターとも民間委託へ変更となったがその理由は。民間のセンター運営(市から五千万)を市民へ公示すべきだが。

**A** 見守り体制の強化やサービスマスの増加等が課題であり、対策として支え合いの地域社会づくりを進め、介護保険制度を円滑に推進する。地域包括支援センターの公正・中立性

を保つために、運営状況の確認や実績報告等により年間を通じて指導を行っている。東西地域包括支援センターとも民間委託となった理由は、専門職を安定して確保するためである。地域包括支援センターを民間委託していることに対する市民への周知は、今後検討する。

(健康福祉部長)

## 小中学校の長寿命化の推進について



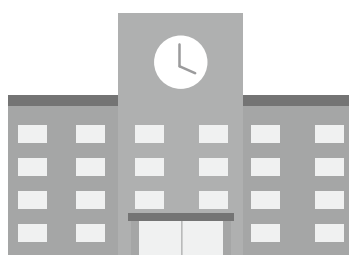
小林順一議員

**Q** 文科省は、2019年から、長寿命化への取り組みに対する優遇制度を導入する方針を固めたが、市内小中学校において、築45年を経過している学校は何校あるのか伺う。

文科省は、長寿命化計画の作成を呼びかけてきたが、市はその呼びかけに対して提出したのか伺う。

**A** 建築後45年を経過している校舎を有する学校は2校あるが、

既に耐震補強工事や大規模改修工事を実施した。また文部科学省への計画書提



幸手市として小中学校の長寿命化に対する施策を伺う。

出は、平成32年度までに提出することとされているので、来年度より市全体で策定に着手する各公共施設の個別計画において検討し、速やかに提出する。なお市としての施策については、昨年度に策定した幸手市公共施設等総合管理計画を受けて、学校施設の長寿命化について個別計画の中で検討する。

(教育次長)

## 補助金不正請求をなぜ詐欺事件としないのか



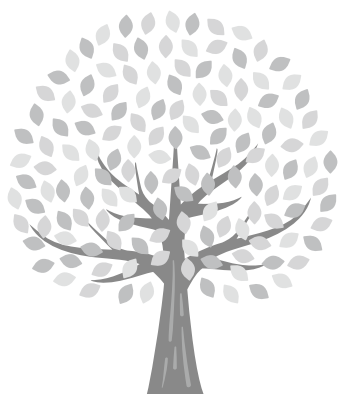
大平泰二議員

**Q** 中島用悪水路土地改良区の工事契約書事業名上にシールを貼り、件名を書き変えた公文書偽造や、国・県からの補助金を工事実績報告書に記入しないで、補助金を騙して請求することは詐欺行為である。市はこれらの行為を詐欺と認めないで「過多の支払い」と頑に言いきっているのは何故か。

中島用悪水路土地改良区の工事契約書事業名上にシールを貼り、件名を書き変えた公文書偽造や、国・県からの補助金を工事実績報告書に記入しないで、補助金を騙して請求することは詐欺行為である。市はこれらの行為を詐欺と認めないで「過多の支払い」と頑に言いきっているのは何故か。

**A** 補助金に関する調査等を行った結果、補助対象となつた事業はいずれも確実に執行され、その請負費が全額支払われていること、組織として補助金の不正な蓄財や金品の隠蔽等は確認されていない事実を勘案すると、事務処理にミスがあったとしても、そこに犯罪があると思量するには至らず、調査を終えた現段階において、刑事訴訟法に基づく告発をすることは考えていない。

補助金に関する調査等を行った結果、補助対象となつた事業はいずれも確実に執行され、その請負費が全額支払われていること、組織として補助金の不正な蓄財や金品の隠蔽等は確認されていない事実を勘案すると、事務処理にミスがあったとしても、そこに犯罪があると思量するには至らず、調査を終えた現段階において、刑事訴訟法に基づく告発をすることは考えていない。



(建設経済部長)

福祉避難所は活かされるのか



本田謡子議員

**Q** 福祉避難所とは、災害時に特別な支援が必要な高齢者や障がい者、妊婦などに向けて設けられる二次避難所である。市で福祉避難所と指定した

「なのはなの里」「さくらの里」「老人福祉センター」の避難想定収容人数とこれからの対策を伺う。また、福祉避難所開設訓練が必要と思うが、市の考えを

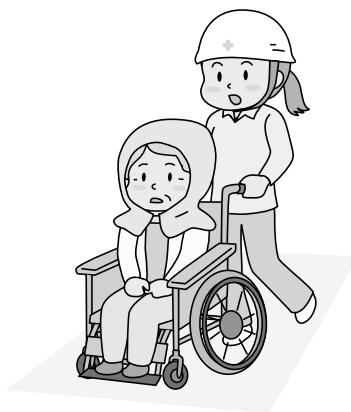
**A** 現在、市が指定する福祉避難所の想定収容人数は、「なのはなの里」が30人、「さくらの里」が30人、「老人福祉センター」が50人となっている。今後、民間法人が管理する施設を新たに指定する方向で調整を行っている。

また、避難所開設訓練については、市の防災訓練と連携し実施したいと考えているが、その

伺う。

ため、まず、各指定施設職員の福祉避難所の役割の認知度を高めたいうえで、先進事例を参考に開設訓練を実施したい。

(健康福祉部長)



駅前保育ステーション新設について



青木 章議員

**Q** 平成31年3月末までに、幸手駅舎、東西自由通路

および駅西口広場等がオープンいたします。そこで、駅前広場付近に「保育ステーション」を新設してほしいと思います。朝、通勤時に駅前保育ステーションで子どもを預かっていただき保育園に送迎。夕方、帰宅時に駅前

とても便利な施設となります。また、駅前保育ステーションの日中空いている時間帯は、一時期に設置を望みますが、いかがでしょうか。

**A** 保育ステーションの場所は、東口側エスカレーター下のスペースを始め、駅前交番裏の土地などを検討します。

平成31年度中に建設し、平成

32年度に開設する予定です。通勤の際に利用する方が使いやすい施設となるよう工夫していきたいと思えます。また、日中の時間帯は、保育所を利用していない子どもを対象とした一時預かりを実施し、施設を有効に活用したいと考えます。

(市長、健康福祉部長)

積雪対応の件



宮杉勝男議員

**Q**

1月22日から23日にかけて雪が降り続き、23cmの積雪があった。さらに、日陰の部分では氷となって危険な状態が数日続いた。そこで次の事を伺う。①積雪に対して市で行った対応を伺う。②市民から寄せられた要望があれば内容を伺う。③積雪による交通事故および通学時の転倒事故の状況を伺う。

**A**

市民への注意喚起や坂道への融雪剤の散布、職員への待機、公共施設の除雪などを行った。道路凍結箇所に関する要望が7件あった。積雪による交通事故件数は人

身事故が3件、物損事故が19件で、通学時は無かった。圏央道側道などの幹線道路で雪が解けない箇所については、建設機械による除雪を状況に応じて実施する。

雪が止んだあとも対応できるように、災害対策班の出勤体制について見直していきたい。  
(市民生活部長・建設経済部長)

地域公共交通の利便性向上と将来構想は



松田雅代議員

**Q**

現在、幸手市が運行する地域公共交通の幸手市デマンド交通は、運行当初より予約が取れない等、市民からの利便性向上の要望が絶えない。さらに、今後の高齢者の免許返納者の増加、国が進める交通政策に対応した地域公共交通網の形成、平成31年3月の幸手駅西口開設に合わせた交通手段の広域

**A**

的確保など、課題協議は急務となっている。現行デマンド交通の改善策、および将来の公共交通網形成にどう取り組んでいくのか伺う。利便性の向上については乗合率の向上に努めていく。乗合率の向上を高めるにあたり、利用者のデータから効率的な運行を行なうための方法として、便別の時間をまたいだ運行を可能にするシステム設定変

更や、乗降にかかる時間の設定変更等を検討していく。また、地域公共交通の将来構想としてはタクシーの活用も含め、今後の幸手市のあるべき公共交通体系というものを幸手市地域公共交通会議等を活用し、検討していく。  
(市民生活部長)

ウェルス幸手施設へのATM設置を問う



木村治夫議員

**Q** 平成28年度主要施策成果表によると、天神の湯利用者状況は、9万6478人である。そのほか健康診断・会議等含めると年間利用者数は、市人口の約3倍近くと思われる。

施設付近にはアスカル幸手、圏央道幸手IC、幸手中央産業団地等があり、今後ますます市の経済活動が活発となる。市民の価値観やライフスタイルの多様化に伴い、そして高齢者に寄り添ったまち、子育て世代の支援等を考えると、行政が主体となつてATM・郵便ポスト設置をしてはいかかがか伺う。

**A** ATM設置については、金融機関との調整が必要となり、金融機関においても利用頻度や維持管理経費が勘案され設置されるものであろうと推察される。

現状においては、設置の要望について把握はしていないが、ポストを含め、幸手中央地区産業団地の操業が本格化される要因などもあることから、要望等が多くなれば、関係機関との調整を図っていききたいと考える。

(総務部長)



インフラ施設の総合管理計画は



武藤寿男議員

**Q** 建物系の公共施設の管理計画は、平成29年度から40年間の維持管理に6百億円掛かるところ、施設の統廃合などにより、2/3の4百億円に縮減し、一年間に10億円の更新、修繕費用にしようとして個別計画を遅ればせながら立てるところである。

一方、人口減少になっても、

道路、橋梁や上下水道などの、インフラ施設は、維持管理費が必要であり、老朽化も進むことから、更に多額の費用がかかることになる。財政の厳しい今後を見通し、どのように対応されるのか伺う。

**A** 公共施設等総合管理計画の中で、インフラ系公共施設に関する基本方針を2つ定めている。

1つ目は、事後保全型から予

防保全型の維持管理へ転換を図り、ライフサイクルコストの縮減をめざす。

2つ目は、インフラ未普及地区や市民ニーズへの対応を段階的に実施するとともに、安全で安心できる社会基盤となるように効率的・効果的な整備を推進する。

この基本方針を踏まえて、財政負担の平準化を図れるように個別施設計画を策定していきたい。

(総務部長)